

地域の自然観察により自然のつながり、課題、魅力を理解できた

一般社団法人おかもまエコサポーターズ

活動の目的

地域の自然を観察することで、地域の環境・自然が様々な生き物や気候風土のつながりによってできていることに気が付く。自然はありがたいでつながっていることを観察や体験を通して理解する。自然のありがたいのつながりを理解するには、生き物と話をできるようになることが重要。そのために、生き物の体のつくり、暮らし、住処について考える視点を身につける。地域の自然・いきもの様子を観察することで、地域の課題や魅力・特徴（その地域には当たり前でも他地域にはないもの=お宝）に気づき、自分たちでできる課題の解決策を考えたり、実行したりするとともに他地域との交流を通じて伝える力を磨く。互いの地域に行き、交流することで体験的に自地域、他地域の課題やお宝を認識し、今後、持続可能な暮らしについて学ぶ際の礎とする。

活動の内容及び経過

小串小学校 ①7/2干潟で自然観察②7/9WEB授業：アサザ基金飯島氏「自然は有難うのつながりでできている・生き物と話をする方法」+学校裏竹林で自然観察。③9/16 飯島氏WEBで竹林と校庭での生き物探し。④10/14 2回目干潟授業・11月中和小とWEB交流・1/28竹伐採2/4炭焼⑤2/25WEB飯島氏+竹食器会社 松本氏による竹林整備と竹の利活用説明・3月中和小と交流。

中和小学校・夏休み打合せ ①9/14WEB授業：飯島氏小串小②と同じ・9/16学校横の川で生き物観察 外部講師3名・9~1月地域の自然や人間、いきものの「ありがたいのつながりマップ」作成②2/17WEB授業：飯島氏マップに関するアドバイス。・3月小串小と交流

巨瀬小学校・7/4アスエコ派遣講師古川氏 学校傍の川で自然観察・8月打合せ ①10/13WEB授業：飯島氏小串小②と同じ②12/14学校傍の里山で自然観察。整備竹林と放置竹林の違い確認。③1/22WEB飯島氏+松本氏小串小⑤と同じ

活動の成果・効果

- ・3校の児童とともに自然はありがたいのつながりでできていることを体験的に理解し、マップを作って繋がりを確認できた。
- ・地域の自然を詳しく観察することで居住地区についての理解が深まった。
- ・WEB交流することで、まとめる力と発表力が向上し、新たな知識が増えた。
- ・WEB（ZOOMとSNSビデオ通話）を使った授業でも通信環境の整備により有効に授業を実施できた。
- ・コロナ禍の中、2学期からでも計画をすれば、実のある総



小串小干潟での自然観察授業



小串小竹林での自然観察授業



中和小ZOOMでの有難うの繋がりに関する授業



巨瀬小竹林の活用についての授業

合学習を行うことができることが分かった。

- ・新たに地域の課題解決に取り組む講師を招き、現場で実物を使って説明をすることでより深い学びになることが分かった。
- ・観察後にスケッチや調べ学習をすることで体験が知識となるため学校のフォローが重要と分かった
- ・学校の総合学習として定例化できれば学校独自の助成金予算化と共に学びが年度単発に終わらずに継続でき、地域を考える視点が続くことが分かった。

今後の課題と問題点

- ・コロナ禍の影響で、2020年の目標やスケジュールなど各学校と詳細な打合せができないまま、授業を行い結果、地域への情報発信や現地での交流、地域の大人との課題共有などが実施できなかった。21年度については、助成金の継続。
- ・学校間、教師間で授業のフォローに差が出るので、事前に打合せを行い一定の成果が得られる様にする。
- ・学習のまとめとしての成果物に関しての最終形の確認が学習の計画時点で学校と共有することが重要であると認識した。
- ・コロナ禍でWEBの交流となったために自地域の学習が中心となり、他地区の現地に行くことが出来なかった分学びの質が上がらなかった。他地区の映像紹介などのフォローが必要であると感じた。
- ・学校、教師により、WEBのスキルが大きく異なるので、通信環境に関して、ち密な打合せ、不具合の際のバックアップ通信の準備が必要であると痛感した。巨瀬小では、WEB環境の不具合で2回の授業がスマホを使っての授業となってしまう。
- ・WEB通信に関するスキル向上が必要であると感じた。

- 代表者：小桐登 ●所在地：玉野市八浜町大崎
- TEL：0863-51-2786 ●E-MAIL：f_onigiri@mx9.kct.ne.jp
- URL：https://okayama-eco-surppo.amebaownd.com
- 設立年：2016年 ●メンバー数：8名